

平成 27 年度海外短期研修報告書

イギリス夏期英語研修（平成 27 年 8 月 24 日～9 月 11 日）

健康福祉学部看護学科 1 年 鈴木 早百合

私は、平成 27 年 8 月 23 日～9 月 13 日に行われたイギリス英語研修に参加しました。研修中の様子について報告します。

イギリス英語研修ではロンドン大学のサマープログラムに参加し、自分で選択したサブジェクトコースを受講しました。プログラム全体で日本人参加者の割合が大きく、私が受講した **International Relations** のクラスは、外国人 4 人、日本人 11 人でした。教室は小さな会議室のような部屋で、常にアイコンタクトがとれるぐらい先生との距離が近かったです。

授業は 1 トピックにつき **preview**(予習), **lecture**(講義), **review**(復習), **lecture discussion**(講義内容についての質疑応答及び意見交換), **seminar**(講義に関連した時事問題についてのディベート)で構成されていて、約 2 日間で 1 トピックを勉強します。3 週間の間に、国際政治、人権問題、貧困問題等の 6 トピックを勉強しました。世界史と現代の世界情勢についての知識を持ち合わせたうえで話が展開されていくので、日ごろから新聞などに目を通しておくべきだったと痛感しました。

日本の授業と大きく違う点は、生徒が **Active learner** であることが当たり前とされている点です。**Active learner** とは講義内容はもちろんのこと、周辺知識を予習の段階で頭に入れ、講義を受ける際は常に “Why～?” と考えてメモを取り、復習の段階で授業中の疑問点及び講義内容を深く調べて自分のものにする人のことです。さらにディベートやディスカッションにおいて各々の意見を交え理解を深めるのです。実際、外国人のクラスメイトはこのスタイルが確立されていて、授業内でも積極的に発言し、ディベートの時にも時間内ずっと意見が飛びかかっていました。人数が多いはずの日本人はほとんど黙っているのので、授業中は外国人生徒の少人数クラスのように感じました。それと同時に発言してクラスに参加したくても意見やそれを表現する英語が思い浮かばないことが悔しく、自分が情けなく思えました。今回の研修によって最も大きく変わったのが勉強に対する意識です。



研修中は大学の寮で生活しました。1人1部屋で、6部屋で1つの共同キッチンを使います。私のキッチンはトルコ人、中国人、日本人4人でした。中国人の子は同い年だったこともあってとても仲良くなり、朝ごはんを一緒に食べて登校も一緒にしました。授業は専門的な英語が飛び交っていて聞くのがやっとでしたが、その子と話す英語は日常会話なので内容まで理解ができ、会話はもちろん英語を楽しむことができました。4年間 SOAS で勉強するためにイギリスに来た子だったので、英語がとてもうまく、日常会話で使うボキャブラリーを会話の中で学ぶことができました。日本文学について勉強していて、ある程度の日本語を読むことができ、3年生になったら日本に留学すると言っていました。今でも連絡を取っていて週末に何をしたかななどを報告し合っています。1年間の留学で来た日本人からも何で留学しようと思ったか、将来どうしていく予定かななどをじっくり聞くことができ、同世代の人達が世界を意識して今勉強している姿をうらやましく思い、自分も将来海外に出たいという思いが強くなりました。

また、放課後や週末には観光をしました。ロンドン市内の名所だけでなく、オックスフォードやケンブリッジ、クマのプーさんのモデルとなったハートフィールド村に行ったり、ミュージカルを見に行ったりしました。行くまでの過程で現地の人と会話することで英語の勉強にもなりましたし、見るものすべてが日本とよりもスケールが大きく感じ、写真の1枚1枚が絵ハガキになるぐらい風景が美しかったです。さらに、観光地で他国からの観光客の方とお話しして少しではありますがイギリス以外のことも知ることができ、英語を使えばどの国の人とでも会話ができる楽しさを改めて実感しました。



以上がイギリスで過ごした3週間の様子です。普段の日本での生活では得ることのできない貴重な経験をたくさんすることができ、自分の世界が広がったように感じます。

最後に、今回の研修を支援してくださった国際課の皆さまにお礼を申し上げます。この報告書が少しでも、留学を考えている方の助けになれば幸いです。